

「隠れた仏たちを語る」



テーマ : 隠れた仏たちを語る
 講師 : 藤森 武
 日本写真家協会会員
 土門拳記念館理事・学芸員
 会場 : 京橋創生館 AGC スタジオ
 日時 : 2013年7月11日

2013年7月11日 京橋創生館 AGC スタジオにおきまして、第181回 aaca フォーラム「隠れた仏たちを語る」が写真家藤森武氏により行われました。

氏は写真家土門 拳の弟子で13年間晩年の大作の助手を務められました。土門の残した日本文化の伝承、古寺巡礼を引き継ぎ仏の撮影を続けられています。

藤森氏の「隠れた仏たち」5冊の中より「華の仏」「里の仏」「神と仏」「海の仏」「山の仏」からスライド99枚を見ました。素晴らしいものばかりで、胸がときめきました。

日本全国、みちのくから筑紫、四国、京都、広島、大阪、若狭、滋賀、会津と氏が発見した隠れた仏像の圧倒的存在感に驚きを感じました。「私は信仰の対象としてではなく立体造形として撮っている。自分の感性で撮影している。」と氏の言葉どおり、仏への視座が特別に研ぎ澄まされておられるのに感動しました。師、土門拳の撮った有名な仏像は撮らない姿勢で隠れ里の隠れた仏たちを探し、発見した時の感動を喜びとしておられます。何百枚の中から99枚セレクトされ、角度を変えて仏の表情の違いを写されていて興味が尽きません。

「華の仏」では陸奥慈恩寺の十二神将、氏いわく神将日本一で干支十二あり十体は写されましたが二体は東京国立博物館にあるそうです。鎌倉前期のもの。他に釈迦如来重文、色っぽいつややかな聖観音立像などすばらしいものです。

「里の仏」では大阪貝塚市孝恩寺の伝弥勒菩薩坐像、帝釈天立像が紹介されシンプルな造形で平安中期のものですがほとんど発表されていません。また、広島県小保利薬師堂の吉祥天立像、薬師如来像などすばらしいものがありました。滋賀県甲賀町の【らく】楽野寺の十一面観音も紹介されました。

「神と仏」では氏は観音様が大好きで二百体撮影されています。観音は慈悲、神は畏敬の存在といわれ、奈良県桜井近く聖林寺観音は有名です。男性的で日本一の像、国宝です。また、岐阜県日吉神社の十一面観音を見ました。ちなみに白洲正子さんが日本一好きな観音らしいです。

「海の仏」は若狭の羽賀寺、古い十一面観音で手が長いのはなぞらしい。平安初期のもの。耳が特徴。また、愛媛松山の部落で見た破損仏をライトアップした時の氏の興奮の様が感じられました。

「山の仏」では仏像は山から靈感を与えられ古代から敬愛されていた。京都愛宕山の月輪寺千手観音は異国風、九州唐津の浮嶽神社の地藏菩薩、会津勝常寺の増長天、滋賀県湖北鷺足寺の薬師如来は女性的で日本一の像です。同じ湖北木ノ本町にある石道寺でのこと。素朴で親しみのある土地の娘のような十一面観音を真冬に撮影していたところ、おばさまたち八人が毛布をかぶり手を合わせ見守っているさまを見て、村の人に守られ信仰されている仏像をいい加減には撮影できないと実感されたそうです。

藤森武氏の仏像行脚はまだ続きます。隠れた仏を探し世に知らしめる使命感と熱情を感じた熱い一日でした。新たに「湖の仏」「川の仏」を企画中と伺いました。また新たな仏たちとの出会いを楽しみにしております。



撮影 藤森 武

「十二神将巳神像」
 山形県寒河江市 慈恩寺 鎌倉時代

文化事業委員会（フォーラム部会） 村松勢津子